

ふれあいリビング



足腰が弱くて、つい自分の家に閉じこもりがちになってしまう高齢者が増えています。入居者の高齢化が急速に進む中、このような支援を要する高齢者の安否確認や、高齢者がいつまでも元気で暮らしていくにはどのようにするか、さまざまな問題が現れてきています。

そんな中、家から近く、気さくに話ができる場所を作りたい。こんな思いをかなえるために作られたのが「ふれあいリビング」です。今では22か所の府営住宅で実施され、それぞれ工夫を凝らされて、周辺の地域の方も訪れるなど活発に活動しています。

今回は、新たに「ふれあいリビング」を新設した住宅を紹介します。

桃山台1丁住宅 ふれあいリビング 「リビング・のぞみ」

夏の暑い時期、外で遊んでいる子どもたちに、あいさつすることを条件に招き入れたのをきっかけに、子どもたちが遊びに来るようになり、その子どものおじいちゃんやおばあちゃんも来ていただけるようになったとのこと。

気軽に入れるアットホームな雰囲気の「リビング・のぞみ」。ゴム銃の射的大会や編み物教室などのイベントを通じ、世代を超えたふれあいの場となり、笑顔の輪が少しずつ広がっているようです。



楠風台住宅 ふれあいリビング「光の園」

いつも来られている方が顔を見せない、電話で様子を確認したり、「光の園」に来られない方の様子も近所の方に「どうしてる?」と聞いてみたり、住宅内の交流が深まっています。

取材に訪れた日は、月に一度のカラオケの日。同じ人が歌わないように整理券を配って、とてみにぎやかにカラオケを楽しめます。その傍らで、折り紙が得意な人が教室を開き、将棋をやりたい人は将棋をする。それぞれに皆さんが楽しまれており、とても活気があり、これが盛況の秘訣となっているようです。



寝屋川打上住宅 ふれあいリビング「すみれ」

近くの公園でのグランドゴルフの帰りや、買い物の帰りの方などが「すみれ」に立ち寄り、日曜日には若い方も顔を出されるということで、今まで話したことのない方とも話をするようになり、交流が深まり地域のふれあいの場となっています。

ハロウィンにはお菓子を配り、クリスマスには空クジなしでプレゼントを用意するなどいろいろなことに取り組み、新たな試みにも意欲満々で、日々ふれあいが生まれてきているようです。



注) この記事は、2011年春号のふれあいだよりに掲載されたものです。
内容はすべて掲載当時のものです。